

陽気のこころ

天理教

THE LINK O

「陽気ぐらしの天理教③」

今日、経済大国になった我が国です。車も一家に一台、テレビは一部屋に一台、オール電化、携帯電話は国民のほとんどが持っているという、本当に豊かで便利な世の中になりました。これだけ繁栄した時代に生きる私たちは皆、毎日楽しく幸せに暮らしているはずなのであります。

ところがどうでしょうか。このように物に恵まれ便利な世の中になったからといって、本当に毎日不満のない満足した生活が送れているのでしょうか。

どうも一概にはうなずけないようです。家庭の中を眺めてみても夫婦の離婚、親子の断絶や虐待など家族の崩壊、子供の世界では、非行、不登校、そしていじめを苦しめての自殺。この他にも、病気や老後の問題など取り上げればきりが無いほど、たくさん問題、不安、悩みを抱えているのが現状ではありませんか。

考えれば、昔のように物質的には恵まれなくても家族が一つになって、目標に向かい、ひたすら歩んでいた頃の方が家庭には明るい灯がともっていたのではないのでしょうか。

今日これだけの素晴らしい文明に恵まれたのに、本当の幸せをつかめないのはなぜでしょうか。

それは、一番大切なものを見落として来てしまったからだと思うのです。お金さえあれば幸せになれる。地位さえあれば、権力さえあればと、一番大切な精神、「心」を置き去りにして来たからだと思います。

私たち、天理教では「身体は神様からのかりものであり、心一つが自分のもの、心一つによって、どのような理もあらわれ、どのような世界もできあがる」と教えられています。心をつくることが一番大事なことなのだと言わせていただきます。

柿の木には柿の実が実りますが、梨の実は実りません。それは当たり前で、蒔いた種通りの結果が現れてくるのが天の理であり、自然の摂理です。不幸になる種を蒔いて幸せになるはずはありません。人を苦しめ困らせたなら、必ず自分に不幸が返ってきます。親不孝をしたら、親不孝の子に悩ませられるのは当然です。夫婦の仲が悪ければ、陽気なやさしい子供は育ちません。

皆さん、幸せになる種を蒔きましょう。

天理教の教祖・おやさまは、「働くというのは、はたはたの者を楽にするから、はたらくと言うのや。」とお教え下さり、また、「人救けたら我が身救かる」ともお教え下さいました。自分は損をしても人様にはたすかっただく、喜んでもらうことを日々積み重ねましょう。また、人が見ている、見ていなくても、人のためになる行い、人に喜んでもらう行いを日々勇んでさせていたしましょ。その中にこそ、将来人生に行き詰らない、幸せになる真実の種が蒔かれているのです。

私たち天理教は、幸せの種の蒔き方を神様のお話によって教えていただくのです。皆様も、本当に幸せになる道を歩んでみませんか。

この近くにも、天理教の教会、布教所があります。どうぞ、一度お立ち寄り下さい。きっと素晴らしい世界が待っています。